

200400207B

厚生労働科学研究費補助金

長寿科学総合研究事業

高齢者の終末期を支える地域ケアシステム構築に関する研究

平成15年度～16年度 総合研究報告書

主任研究者 川越 博美

分担研究者 村嶋幸代

高橋龍太郎

山本則子

永田智子

平成17（2005）年 3月

目 次

I. 総合研究報告		
高齢者の終末期を支える地域ケアシステムの構築に関する研究	-----	1
川越博美		
II. 平成15年度		
1. 総括研究報告	-----	4
高齢者の終末期を支える地域ケアシステムの構築に関する研究		
村嶋幸代		
2. 分担研究報告		
1) 高齢者のターミナルケアに関する文献検討	-----	7
永田智子・村嶋幸代・高橋龍太郎・川越博美・山本則子		
小林小百合・宮田乃有（研究協力者）		
2) 全国の訪問看護ステーションにおけるターミナルケアの実態に関する研究	-----	31
村嶋幸代・川越博美・永田智子		
田口敦子・本田亜起子・宮田乃有・近藤由生子（研究協力者）		
3) 痴呆性高齢者グループホームにおけるターミナルケアの取り組み	-----	40
村嶋幸代・山本則子・永田智子・川越博美・高橋龍太郎		
小林小百合（研究協力者）		
資料1 インタビューガイド		
資料2 施設長宛説明書・同意書		
資料3 ご家族様宛説明書・同意書		
III. 平成16年度		
1. はじめに	-----	54
2. 総括研究報告	-----	55
高齢者の終末期を支える地域ケアシステムの構築に関する研究		
川越博美		
3. 分担研究報告		
1) 高齢者の在宅ターミナルケアにおけるチームアプローチに関する文献検討	-----	58
川越博美		
大金ひろみ・滋野みゆき・内田千佳子（研究協力者）		
2) 地域における終末期ケアの医療的側面についての考察	-----	71
高橋龍太郎		
3) 痴呆高齢者グループホームが経験したターミナルケアの取り組み	-----	74
村嶋幸代・山本則子・永田智子・高橋龍太郎		
小林小百合（研究協力者）		
4) 小規模ケアホームと在宅における訪問看護ステーションのターミナルケアの取り組み	-----	83
川越博美		
大金ひろみ・滋野みゆき・宮田乃有・竹森志穂・内田千佳子（研究協力者）		
資料1 インタビューガイド		
資料2 施設長宛説明書・同意書		
資料3 ご家族様宛説明書・同意書		
資料4 事例経過表		
IV. 考察・提言	-----	120
V. 研究成果	-----	123
VI. 参考文献	-----	125

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）

I. 総合研究報告書

高齢者の終末期を支える地域ケアシステムの構築に関する研究

主任研究者 川越 博美 聖路加看護大学 教授

研究趣旨：

地域における高齢者のターミナルケアの現状を検討し、高齢者のターミナルケアシステムの構築に向けた提言をすることを目的として、①文献検討、②全国の訪問看護ステーション（以下訪問看護ST）におけるターミナルケアの実態調査、③痴呆性高齢者グループホーム（以下GH）の管理者へのインタビュー調査、④小規模ケアホームと在宅での看取りを支援した訪問看護ST訪問看護師へのインタビュー調査、による事例研究を行った。

文献検討の結果、海外では、病院、ナーシングホームなどでのターミナルケアを扱った研究、倫理的課題を扱った研究が多く、国内では高齢者施設を対象とした論文は少ないが、報告書レベルでは全国調査が複数行われていた。プログラム評価・介入研究などは国内外共に少なく、今後の課題と考えられた。また米国・英国では、高齢者のターミナルケアは一般的なホームケアチームと看取りを専門とした緩和ケアチームで提供されていた。

全国の訪問看護STにおけるターミナルケアの実態調査では、1月間に在宅死を経験した訪問看護STは全体の3割であった。設立年度、地域区分、開設主体、同一法人内の入院施設の有無、緊急時訪問看護加算などの届出は、在宅での看取りの実施可能性や実施の有無と関連していた。

GHの管理者7名のインタビュー調査からは、実施したターミナルケアとして、①なじみ深い生活を最期まで提供する。②心身機能低下を最小限にとどめるケアを最期まで継続する。③状況の先手を打ち、望まれる終末期医療を万全に活用する。④最期までケアの計画・実施のために家族と協働する、が抽出された。

小規模ケアホームと在宅での看取りを支援した訪問看護ST訪問看護師へのインタビューによる事例研究では、いずれもチームでケアが提供されていた。ターミナルケア内容は①身体状況にあわせた日常生活支援、②症状コントロールのための医療的ケア、③本人の意思の尊重したケア、④家族の意思を尊重した家族支援、であった。またターミナルケアの条件は、それぞれの場所で特有の条件もあるが、共通点としては、24時間体制でチームでケアができること、本人の意思が尊重されること、家族の意思が尊重されることであった。またケア過程において、高齢者のターミナルのとりえ方やケア方法に明確な基準がないことから、訪問看護師は迷いながらケアに関わっていた。しかし迷いながらも訪問看護師は、これまでとは違う諸変化（動けなくなること/ADL低下・食べられなくなること/嚥下困難・経口摂取量の減少）を繋ぎ合わせてターミナルと捉えていた。

以上の結果を踏まえ、在宅だけではなく、さまざまな場所で生活する高齢者のターミナルを支援するためのケアシステム構築に向けた提言を行った。

分担研究者

村嶋幸代	東京大学大学院医学系研究科 地看護学・教授
高橋龍太郎	東京都老人総合研究所看護・ ヘルスケア部門・部長
山本則子	千葉大学看護学部・助教授
永田智子	東京大学医学系研究科・助手

A. 研究目的

地域における高齢者のターミナルケアの現状を調査し、高齢者のターミナルケアシステム構築に向けた提言を行うことを目的とした。

B. 研究方法

1. 文献検討

国外の研究については、「AGED」*「terminal care」を検索タームとして、Medlineを用

いて、2000年以降の論文を検索した。国内の研究に関しては、医学中央雑誌を用いて、「高齢者」*「ターミナル(ケア)」を検索タームとして1999年以降の文献を検索した。また関連する報告書も収集した。

また海外のターミナルケア、特に米国と英国の高齢者のターミナルケアについて、CINAHLを用いて検索を行った。「community health service」が含まれる文献の中からタイトル、アブストラクトに「palliative」「terminal」「hospice」が含まれる文献を150文献抽出し、その中で研究者2名が有用とした文献について検討した。

2. 全国調査

全国3,013箇所の訪問看護ステーション(以下訪問看護ST)の管理者にアンケート調査を郵送し、回収された1,897箇所のうち1,891箇所を分析対象とした(有効回答率62.8%)。

3. グループホーム管理者へのインタビュー調査

ターミナルケアに実績のあるグループホーム(以下GH)の管理者7名にインタビューを実施し、継続比較分析を中心とした質的分析を行った。

4. 小規模ケアホームおよび在宅での看取りを支援した訪問看護ST訪問看護師へのインタビュー調査による事例研究

小規模ケアホームに入居して最期を迎えた2事例と在宅で最期を迎えた2事例のターミナルケアについて訪問看護STの訪問看護師にインタビューを実施し、事例として質的分析を行った。

(倫理面への配慮)

GHの管理者、訪問看護ST訪問看護師へのインタビュー調査については、東京大学医学部倫理委員会の承認を得た。

事前に研究者からGH管理者、訪問看護ST所長に、研究目的・方法・倫理的配慮等について文書と口頭で説明し、文書で同意を得た。その後、各施設から事例となった利用者遺族に研究者が準備した事例開示に関する説明文書を郵送してもらい、遺族が署名した同意書が研究者に返送された後、インタビューを行った。

C. 研究成果

1. 文献検討

海外文献では、病院、ナーシングホームなどでのターミナルケアを扱っている物が多く、一部に在宅での取り組みや一般高齢者への意識調査などが見られた。内容は、高齢者自身の意思決定、延命治療の実施の是非、ナーシングホームでのケアの質など、

倫理的課題を扱っているものが多かった。

国内での研究に関しては、病院及び在宅をテーマとした文献が多く、高齢者施設を対象とした研究は少なかった。内容は、意識調査が多く、次いで実態調査が見られるが、プログラム評価などの実証研究は少なかった。一方、研究報告書についてみると、高齢者施設を対象とした全国調査が複数行われており、先駆的な取り組みをとらえたものと考えられた。

また、米国・英国での高齢者のターミナルケアは一般的なホームケアチームとホスピス・緩和ケアチームがケアを提供しており、それぞれのチームでチームメンバー、ケア内容、診療報酬が異なっていた。また病院と地域のケアを結ぶチームの活動が有用であるとの報告もあった。チームのコーディネーターは看護師が担っており、緩和ケアや看取りの専門的教育を受けた看護師が活躍していた。

2. 全国調査

1ヶ月間に在宅死を経験した訪問看護STは31.4%で、65歳未満の看取りを経験したのは3%前後だが、65~84歳・85歳以上では、それぞれ約17%が経験していた。また、入院して2週間以内の死亡の割合と比較すると、他の年代に比べて85歳以上では在宅での看取りが多かった。また、85歳以上では悪性新生物による死亡よりもその他の疾患の方が多かった。在宅での看取りが実施可能と答えた訪問看護STは1,772箇所(93.7%)と多かった。設立年度、地域区分、開設主体、同一法人内の入院施設の有無は、在宅での看取りの実施可能性や実施の有無と関連していた。また、緊急時訪問看護加算などの届出がある方が実施可能性、実施共に多かった。看取りを行った訪問看護STのうち50%弱がターミナルケア加算(療養費)を算定していなかった。計画的訪問については、「日曜日昼間」と「準夜帯」の実施が実施可能性・実施共に有意な関連を示した。

3. グループホーム管理者へのインタビュー調査

GHで看取りに至った事例において提供されたターミナルケアとして、①ターミナル以前からのなじみ深い生活を最期まで提供する。②心身の機能低下を最小限にとどめるケアを最期まで継続する。③状況の先手を打ち、望まれる終末期医療を万全に活用する。④最期までケアの計画・実施のために家族と協働する、という4つのカテゴリーが生成され、さらにこれらのカテゴリーを関係づけるコアカテゴリーとして「家族とともに機能低下や症状によって生じる状況をコントロールしながら、なじみの生活を守り抜く」が生成された。

GHにおけるターミナルケアは、なじみ深い生活の支援、機能低下に対応するケア、症状コントロー

ルのための医療的ケア、家族との協働が重要であることが示唆された。

4. 小規模ケアホームおよび在宅での看取りを支援した訪問看護ST訪問看護師へのインタビュー調査による事例研究

ターミナルケア内容は、「身体症状に合わせた日常生活支援」「症状コントロールのための医療的ケア」「本人の意思を尊重したケア」「家族の意思を尊重した家族支援」であった。ターミナルケアの条件は、それぞれの場所で異なった条件もあるが、共通点としては、24時間体制でチームケアができること、本人の意思が尊重されること、家族の意思が尊重されることであった。小規模ケアホームと在宅では、家族支援における家族との関係性のとり方に相違があったり、小規模ケアホームでは見取りを家族だけではなく入居所とも共有をしていたなどおのこの場所で特有なターミナルケアやターミナルケアの条件が抽出された。またケア過程において、高齢者のターミナルのとらえ方やケア方法に明確な基準がないことから、訪問看護師は迷いながらケアに関わっていた。しかし迷いながらも訪問看護師は、これまでとは違う諸変化（動けなくなること/ADL低下・食べられなくなること/嚥下困難・経口摂取量の減少）を繋ぎ合わせてターミナルと捉えてケアを行っていた。

D. 考察

高齢者のターミナルケアは、高齢者がなじみ深い生活の場所で生活を継続し最期を迎えることが重要である。高齢者のなじみ深い生活の場所は、自宅はもちろんのこと多様な生活場所（GH、小規模ケアホームなど）が考えられる。したがって多様な場所で最期を迎えることを支援する高齢者のターミナルケアシステムの構築が急務である。

高齢者のターミナルケアの条件である、高齢者の意思と家族の意思を尊重した24時間体制でのチームケアをどのようにすれば提供できるか。地域での高齢者の生活の場（自宅・介護施設・GH・小規模ケアホーム・有料老人ホーム・シルバーハウスなど）へ地域でケアを提供している既存の在宅ケアチームと今後増加するであろう在宅緩和ケアチームが協働しながら訪問しターミナルケアを提供するシステムが、本研究で明らかになったターミナルケア内容と条件を満たすケアシステムであると考えられた。

D. 結論

高齢者のターミナルケアの先行研究、全国の訪問看護STの調査結果、GH管理者へのインタビュ

一、小規模ケアホーム・在宅での看取りを支援した訪問看護SY訪問看護師へのインタビュー調査から以下のことが明らかになった。ターミナルケアは、高齢者のなじみ深い生活が最期まで継続できることを基盤にしなが、心身の状況に合わせた生活支援と症状を緩和できる医療的ケア、家族への支援と協働が重要である。ターミナルケアの条件は、高齢者と家族の意思を尊重しながら24時間体制でチームでケアにあたることであった。またケア過程においてこれまでとは違う諸変化（動けなくなること/ADL低下・食べられなくなること/嚥下困難・経口摂取量の減少）を繋ぎ合わせてターミナルと捉えていた。

以上の結果から、高齢者の多様な生活の場所に、在宅ケアチームと在宅緩和ケアチームが協働して訪問しターミナルケアを提供できるケアシステムを構築し、尊厳ある高齢者のターミナルケアを提供することが望ましいと考えられた。

F. 健康危険情報

特記事項なし

G. 研究発表

小林小百合、山本則子、永田智子、村嶋幸代、川越博美、高橋龍太郎：痴呆性高齢者グループホームにおけるターミナルケアの取り組み、国際アルツハイマー病協会、第20回国際会議、京都、2004.10.

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし

高齢者の終末期ケアを支える地域ケアシステムの構築に関する研究

主任研究者 村嶋幸代 東京大学大学院医学系研究科地域看護学 教授

研究要旨：

在宅等における高齢者のターミナルケアの現状と今後の課題について検討することを目的として、文献検討、全国の訪問看護ステーションにおけるターミナルケアの実態調査、ターミナルケア実施経験のある痴呆性高齢者グループホームの管理者へのインタビュー調査を行った。

文献検討の結果、海外では、病院、ナーシングホームなどでのターミナルケアを扱った研究、倫理的課題を扱った研究が多く、国内では高齢者施設を対象とした論文は少ないが、報告書レベルでは全国調査が複数行われていた。プログラム評価・介入研究などは国内外共に少なく、今後の課題と考えられた。

全国の訪問看護ステーションにおけるターミナルケアの実態調査では、1ヶ月間に在宅死を経験したステーションは全体の3割であった。85歳以上では、入院して2週間以内の死亡よりも在宅での看取りが多く、悪性新生物による死亡よりもその他の疾患の方が多かった。設立年度、地域区分、開設主体、同一法人内の入院施設の有無、緊急時訪問看護加算などの届出は、在宅での看取りの実施可能性や実施の有無と関連していた。

ターミナルケア実施経験のある痴呆性高齢者グループホームの管理者1名へのインタビュー調査からは、GHでのターミナルケアを可能にする要素として、a.ターミナルケアに焦点を当てた往診医などとの特別な連携体制づくり及びスタッフ教育などGH内部の体制づくり、b.安定した患者の状況、c.看護職がGHにいること、d.ホーム長のターミナルケアに対する特別な熱意、が挙げられた。また、ホーム長によって望ましいと評価されるターミナルのプロセスについても、複数の要素が見出された。

分担研究者

川越博美 聖路加看護大学・教授
高橋龍太郎 東京都老人総合研究所・参事研究員
山本則子 TBI リハビリテーションセンター・研究員
永田智子 東京大学医学系研究科・助手

することを目的とした。

B. 研究方法

1. 文献検討

海外での研究に関しては、Medline (OVID)を用いて、“AGED” * “terminal care”をメインの検索タームとして、2000年以降の文献を検索した。国内での研究に関しては、医学中央雑誌を用いて、「高齢者」*「ターミナル(ケア)」をメインの検索タームとして1999年以降の文献を検索した。また、関連する報告書の収集も行った。

A. 研究目的

本研究では、在宅等における高齢者のターミナルケアの現状と今後の課題について検討

2. 全国調査

全国 3013 箇所のステーションの管理者にアンケート用紙を郵送し、回収された 1897 箇所のうち、1891 箇所を分析対象とした（有効回答率 62.8%）。

3. グループホーム管理者へのインタビュー調査

ターミナルケア実施経験のある GH の管理者 1 名にインタビューした。インタビューはテープに録音し、逐語録を作成してデータとした。継続的比較分析を中心とした質的分析を行い、インタビュー内容を整理した。

C. 結果

1. 文献検討

海外文献では、病院、ナーシングホームなどでのターミナルケアを扱っている物が多く、一部に在宅での取り組みや一般高齢者への意識調査などが見られた。内容は、高齢者自身の意思決定、延命治療の実施の是非、ナーシングホームでのケアの質など、倫理的課題を扱っているものが多かった。

国内での研究に関しては、病院及び在宅をテーマとした物が多く、高齢者施設を対象とした研究は少なかった。内容は、意識調査が多く、次いで実態調査が見られるが、プログラム評価などの実証研究は少なかった。一方、研究報告書についてみると、高齢者施設を対象とした全国調査が複数行われており、先駆的な取り組みをとらえたものと考えられた。

2. 全国調査

1 ヶ月間に在宅死を経験したステーションは 31.4% で、65 歳未満の看取りを経験したのは 3% 前後だが、65～84 歳・85 歳以上では、それぞれ約 17% が経験していた。また、入院して 2 週間以内の死亡の割合と比較すると、他の年代に比べて 85 歳以上では在宅での看取りが多かった。また、85 歳以上では悪性新生物による死亡よりもその他の疾患の方が多かった。在宅での看取りが実施可能と答えた

ステーションは 1772 箇所（93.7%）と多かった。設立年度、地域区分、開設主体、同一法人内の入院施設の有無は、在宅での看取りの実施可能性や実施の有無と関連していた。また、緊急時訪問看護加算などの届出がある方が実施可能性、実施共に多かった。看取りを行ったステーションのうち 50% 弱がターミナルケア加算（療養費）を算定していなかった。計画的訪問については、「日曜日昼間」と「準夜帯」の実施が実施可能性・実施共に有意な関連を示した。

3. グループホーム管理者へのインタビュー調査

GH でのターミナルケアを可能にする要素には、a.ターミナルケアに焦点を当てた往診医などとの特別な連携体制づくり及びスタッフ教育など GH 内部の体制づくり、b.安定した患者の状況、c.看護職が GH にいること、d.ホーム長のターミナルケアに対する特別な熱意、が挙げられた。ホーム長によって望ましいと評価されるターミナルのプロセスには、a.ターミナル期以前の家族との関係形成、b.ターミナルに関する家族中心の意思決定、c.家族のターミナルケアへの参加、d.家庭生活に近い環境づくりのためのケア、といった要素が見出された。

D. 結論

高齢者のターミナルケアの先行研究について、海外では、倫理的課題を取り上げたもの、ナーシングホーム入所者を対象としたものが多かった。一方、国内では、福祉施設・機関におけるターミナルケアを取り上げた論文は少なかったが、報告書レベルでは全国規模の調査が複数行われていた。国内外共に、介入研究・プログラム評価などの研究は少なく、今後の課題と考えられた。

全国の訪問看護ステーションにおいて、85 歳以上の超高齢者では、入院して 2 週間以内の死亡よりも在宅での看取りが多く、悪性新

生物による死亡よりもその他の疾患の方が多かった。設立年度、地域区分、開設主体、同一法人内の入院施設の有無、緊急時訪問看護加算などの届出は、在宅での看取りの実施可能性や実施の有無と関連していた。在宅での看取りを実施するステーションの特徴が改めて示されたと共に、高齢者のターミナルケアについて検討することの意義が示されたと考えられる。

痴呆性高齢者グループホームの管理者へのインタビュー調査からは、GHでのターミナルケアを可能にする要素、および、ホーム長によって望ましいと評価されるターミナルのプロセスについての要素について見出された。今回抽出された「患者の状況」「看護職の存在」「ホーム長の熱意」等について、本事例とは異なる条件下でターミナルケアを実施した経験を持つGHを対象として、さらにデータ収集と分析をすすめていきたい。また、多角的にGHでのターミナルケアの可能性を検討していく上で、今後は家族やスタッフの視点を把握する必要もあるものと思われる。

F. 健康危険情報

特記事項なし

G. 研究発表

「研究成果の刊行に関する一覧表」にまとめて記載

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
分担研究報告書

高齢者の終末期ケアを支える地域ケアシステムの構築に関する研究（H15-長寿-019）

Ⅱ-2 1) 高齢者のターミナルケアに関する文献検討

主任研究者 村嶋幸代 東京大学大学院医学系研究科地域看護学 教授
分担研究者 永田智子 東京大学大学院医学系研究科地域看護学 助手
高橋龍太郎 東京都老人総合研究所 看護・ヘルスケア部門 参事研究員
川越博美 聖路加看護大学 教授
山本則子 TBIリハビリテーションセンター 研究員
研究協力者 小林小百合 東京大学大学院医学系研究科地域看護学
宮田乃有 聖路加看護大学

研究要旨：

高齢者のターミナルケアについての国内外の研究状況を把握するため、文献検討を行った。海外での研究に関しては、Medline (OVID)を用いて、“AGED” * “terminal care”をメインの検索タームとして、2000年以降の文献を検索した。その結果、病院、ナーシングホームなどでのターミナルケアを扱っている物が多く、一部に在宅での取り組みや一般高齢者への意識調査などが見られた。内容は、高齢者自身の意思決定、延命治療の実施の是非、ナーシングホームでのケアの質など、倫理的課題を扱っているものが多かった。国内での研究に関しては、医学中央雑誌を用いて、「高齢者」*「ターミナル（ケア）」をメインの検索タームとして1999年以降の文献を検索した。その結果、病院及び在宅をテーマとした物が多く、高齢者施設を対象とした研究は少なかった。内容は、意識調査が多く、次いで実態調査が見られるが、プログラム評価などの実証研究は少なかった。一方、研究報告書についてみると、高齢者施設を対象とした全国調査が複数行われており、先駆的な取り組みをとらえたものと考えられた。

A. 目的

高齢者のターミナルケアについての国内外の最近の研究状況を把握することを目的として、英語文献および国内文献の検索・内容の検討を行った。

B. 方法

1. 英語文献

Medline (OVID)を用いて、シソーラス用語である“AGED” * “terminal care”をメインの検索タームとし、2000年以降でかつ

Abstractを有する文献を検索した。抽出された文献Abstractを通読し、高齢者がメインの対象になっていないもの、医療技術や薬剤等に関する専門的な知見に関するものなどを除いた上で、入手可能な文献をリストアップした。さらに、入手した文献を通読し、論文の形態、内容、対象などによって分類し、傾向について分析した。

2. 日本語文献

医学中央雑誌を用いて、「高齢者」*「ターミナル（ケア）」を検索タームとして1999年

以降の文献を検索した。抽出された文献のうち、抄録があるものを通読し、論文の形態、内容、対象などによって分類し、傾向について分析した。

また、文献検索や情報交換の中で、入手できた高齢者のターミナルケアに関連する報告書を整理し、特に訪問看護ステーションについての全国調査については2件行われていたので、内容の比較検討を行った。

C. 結果

1. 英語文献 (表1)

Medline (OVID) 1996-2004 で、“Terminal Care”では 4,702 件、“AGED”では 458,204 件、“Terminal care” AND “Aged”では、1,119 件抽出された。さらに、Abstract、English、yr=2000-2004 で制限すると、359 件が抽出された。抽出された文献 Abstract を通読し、高齢者がメインの対象になっていないもの、医療技術や薬剤等に関する専門的な知見に関するものなどを除いた上で、入手可能な文献をリストアップしたところ、93 件が抽出された。

この 93 件について、まず「調査・研究」と「レビュー(解説含む)」に大別したところ、「調査・研究」が 63 件、「レビュー (解説)」が 30 件であった。

「調査・研究」を、対象・内容などにより分類したところ、「一般対象の高齢者ターミナルケアに関する意識調査」11 件、「高齢患者全般 (末期の意思表示、死亡場所、ケアのあり方など含む)」13 件、「高齢患者のターミナルケアに関するコスト・サービス利用」5 件、「在宅患者に関する研究」3 件、「痴呆患者に関する研究」7 件、「ナーシングホームでのケア提供に関する研究」22 件、「ナーシングホーム利用者における末期の意思決定」2 件に分類できた。研究方法としては、質問紙による実態調査、インタビューによる量的研究、インタビューデータを用いた質的研究などが

多かったが、「高齢患者のターミナルケアに関するコスト・サービス利用」については既存データ (Medicare データなど) の再分析が行われていた。また、介入研究としては、対照群を設けたものが 1 件 (「高齢患者全般」に分類、Schwartz CE, Wheeler HB, Hammes B, et al. 2002)、対照群を有しないものが 2 件見られた。対照群を有する 1 件は、老年科外来通院患者に対し、訓練されたファシリテーターに相談する機会を設けた群とそうでない群とで、advanced care planning 記載にあたり、末期の治療などの理解度がどのように異なるかを調べた研究であり、介入群で理解度が高まったという結果が得られていた。

「レビュー (解説)」については、「高齢患者全般」に関するものが 21 件、「痴呆患者」に関するものが 5 件、「ナーシングホーム入所者」に関するものが 4 件であった。論文の選択基準を明記したレビューは 11 件で、9 件はどちらかという解説に近く、1 件は高齢者ケアのスタンダードについて述べたものであった。

93 件の論文にそれぞれ使われていた代表的なキーワード (Medline のシソーラス用語) の数をみると、“nursing homes / homes for the aged” 28 件、“attitude to health/ attitude to death” 25 件、“decision making” 24 件、“advance directives” 21 件、“quality of health care” 13 件、“ethics (medical, nursing, clinical etc.)” 10 件、“practice guidelines” 7 件、“home care services” 5 件、“withholding treatment” 5 件、“truth disclosure” 4 件、“health services for the aged” 4 件、“home nursing” 2 件となっており、ナーシングホームに関する論文、健康や死に関する態度についての論文、意思決定に関する論文などが多いことがここからも裏付けられた。

2. 日本語文献 (表2, 3)

医学中央雑誌 (1983-2004) で「高齢者」 and 「ターミナル (ケア)」を検索し、原著、1999 年以降に限定したところ、43 件がヒットした。そのうち、がんや医学的治療に限定しているものを除き、37 件を分析の対象とした。(表 2, 3)

文献を研究対象の「場」(=ターミナルケアの行われる場)によって分類したところ、病院・病院から在宅が 10 件、特別養護老人ホーム・老人保健施設が 3 件、在宅が 8 件であった。また、対象者の属性別に分類すると、高齢者自身を対象としているのが 9 件(うち一般高齢者 4 件、施設入居・サービス利用高齢者 3 件、特別な属性を持つ高齢者が 2 件)、介護者・家族が 6 件、高齢者と介護者を同時に取り上げているのが 2 件、入院・外来患者が 4 件、医療従事者が 4 件、一般対象が 5 件(うち医学生が 2 件、一般学生 1 件)などであった。論文の内容によって分類すると、意識調査が 14 件と多く、次いで実態調査 7 件、事例 4 件、プログラム評価 2 件であった。

一方、高齢者ターミナルケアに関連する報告書は 9 冊入手することができた(表 4)。このうち、主に在宅高齢者(訪問看護ステーション)に焦点を当てているものは 3 冊、諸外国の制度に焦点を当てているものが 2 冊、特別養護老人ホーム、老人保健施設、痴呆性高齢者グループホームに焦点を当てているものは各 1 冊、高齢者の生活の場全体を取り上げているものは 1 冊であった。訪問看護ステーションを対象にしたもののうち 2 冊と、特別養護老人ホーム、老人保健施設、痴呆性高齢者グループホームのそれぞれを対象としたものは、全国における実態や意向に関する調査を行っていた。このうち、訪問看護ステーションを対象とした研究報告書については、論文としても発表されていたが、その他の調査報告は未発表であり、広く知見を公開していくことが求められると考えられた。

訪問看護ステーションの全国調査を含む 2

冊の報告書について、内容の比較を行った(表 5)。調査時期には約 2 年の差があった。対象は、全数と抽出という違いがあったが、対象数は約 3,000 で同じであった。知見のうち、在宅死亡率の高さに関連する要因としては、独立型ステーション(病院がグループ内にない)、終末期ケアに積極的などが共通して上がっていた。一方、家族(遺族)の満足度については、「家族の希望が影響。死亡場所が自宅であることだけでは満足度は高まらない」とする知見と、「看取りの満足度は、遺族調査で在宅の方が高い」という知見とに分かれた。また、看護者による「家族の満足度」の評価は、「本人による評価と一致するとは限らない」という知見と、「担当看護師への調査でも同様」という知見とに分かれていた。

D 考察

英語文献では、病院、ナーシングホームなどでのターミナルケアを扱っている物が多く、一部に在宅での取り組みや一般高齢者への意識調査などが見られた。内容は、高齢者自身の意思決定、延命治療の実施の是非、ナーシングホームでのケアの質など、倫理的課題を扱っているものが多かった。また、高齢者への医療全般やターミナルケアに関するコストを扱ったものも見られ、高齢者自身の QOL と社会的コストなどの多方面から、倫理的な問題を扱われていると言えよう。ナーシングホーム入所者やケア提供者に関する論文が非常に多く見られたことは、特に欧米諸国ではナーシングホームなどの福祉施設におけるターミナルケアが広く行われていることの反映であると考えられた。職員の教育が不十分であること、ケアの質に問題があることなどが指摘されているが、中にはそれを改善しようとする試み(教育的介入など)も見られている。日本でも今後、多様な施設・機関でのターミナルケアが促進されていくと考えられ、これらの研究は参考になると思われる。

国内論文に関しては、病院及び在宅をテーマとした物が多く、高齢者施設を対象とした研究は少なかった。これは、実際に高齢者施設でのターミナルケアがまだ殆ど行われていない現状を反映していると考えられる。内容としては、意識調査が多く、次いで実態調査が見られるが、プログラム評価などの実証研究は、英語論文と同様少なかった。一方、研究報告書の中には、福祉施設などを対象とした大規模調査の報告があり、病院・在宅以外のターミナルケアの場として、新たな選択肢の模索が進められている現状が見られた。訪問看護ステーションを対象とした研究では、遺族の満足度に関連する要因について、多少異なる見解が示されていた。調査時期の他、質問紙の内容などによっても回答に差が生じる可能性があり、今後の研究においては、先行研究の比較検討を踏まえた準備が必須であることが改めて確認された。

E. 結論

高齢者のターミナルケアについて、英語文献では、倫理的課題を取り上げたもの、ナーシングホーム入所者を対象としたものが多かった。日本語論文では、福祉施設・機関におけるターミナルケアを取り上げたものは少なかったが、報告書レベルでは全国規模の調査が複数行われていた。国内外共に、介入研究・プログラム評価などの研究は少なく、今後の課題と考えられた。

F. 健康危険情報

特記事項なし

G. 研究発表

「研究成果の刊行に関する一覧表」にまとめて記載

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし

表1 英語文献一覧

Title	Author	Source	Year	国	key words	方法	対象者	内容
End-of-life issues-preferences and choices of a group of elderly Chinese subjects attending a day care centre in Singapore	Low JA, Ng WC, Yap KB, Chan KM.	Annals Academy of Medicine Singapore.29(1): 50-56	2000	シンガポール	attitude to health (death)/advance directives/decision making	インタビュー(量的まとめ)	シンガポール華僑(デイクケア参加者・高齢者)	シンガポール華僑のend-of-lifeの意向と選択
Dying away from home: Quandaries of migration for elders into two ethnic groups	Becker G.	Journals of Gerontology: Social Sciences.57B(2):S79-82	2002	USA	attitude to health (death)	インタビュー(質的)	50歳以上のフィリピン人・カンボジア人	移民(高齢者)の死についての思い
Meaning and agency in discussing end-of-life care: a study of elderly veterans' values and interpretations	Young AJ, Oforiboateng T, Rodriguez KL, Plowman JL.	Qualitative Health Research, 13(8), 1039-62	2003	USA	advance directives	インタビュー(質的)	退役軍人	高齢退役軍人に対して「end-of-life care」についてのインタビュー、質的研究
Life-sustaining treatments: what do physicians want and do they express their wishes to others?	Gallo JJ, Straton JB, Klag MJ, Meoni LA, Sulmasy DP, Wang NY, Ford DE.	Journal of the American Geriatrics Society, 51(7): 961-9	2003	USA	advance directives	実態調査(質問紙調査)	高齢医師	高齢医師への調査。自分自身のターミナルケアについての意向や、意思表示についての実態
End-of-life decision making: a qualitative study of elderly individuals	Rosenfeld KE, Wenger NS, Kazawa-singer M.	Journal of General Internal Medicine.15(9): 620-625	2000	USA	decision making	質的研究(インタビュー)	一般高齢者(シニアセンター)やリタイアメントコミュニティでリクルート	高齢者の末期の意思決定について、高齢者自身がどう考えているか(質的研究)
Chinese seniors' perspectives on end-of-life decisions	Bowman KW, Singer PA.	Social Science & Medicine. 53(4): 455-64	2001	カナダ	attitude to health (death)/ advance directives/ decision making	質的研究(インタビュー)	一般高齢者(カナダの中国人コミュニティ)	カナダの中国人コミュニティで高齢者にインタビュー。ターミナルの決断について
Values underlying end-of-life decisions: a qualitative approach	Leichtentritt RD, Retting KD.	Health and social work.26(3): 150-9	2001	イスラエル	attitude to health (death)/ withholding treatment/ decision making	質的研究(インタビュー)	一般高齢者	末期の決断についての価値観。高齢者とその家族にインタビュー
Hastening death: a comparison of two end-of-life decisions	Cicirelli VG, MacLean AP, Cox LS.	Death Studies, 24(5): 401-419	2000	USA	attitude to health (death)/ decision making/ refusal	量的研究(シナリオ十他要因)	一般高齢者	5つのシナリオを用い、延命、治療中止、assisted suicideのどれかを選んでもらう。その他に宗教観、価値観、死への恐怖、LOC、健康状態、SESなども調査
Older adults' attitudes toward death: links to perceptions of health and concerns about end-of-life issues.	Lockhart LK, Boolwala J, Fagerlin A, Coppola KM, Ditto PH, Danks JH, Smucker WD.	Omega-Journal of Death and Dying. 43(4): 331-47	2001	USA	attitude to health (death)	量的研究(質問紙)	一般高齢者	高齢者の死への態度: 身体的健康・精神的健康との関連、末期医療との関連についての検討
Preference for place of death in a counting care retirement community	Hays JC, Galanos AN, Palmer TA, McQuoid DR, Flint EP.	Gerontologist. 41(1): 123-8	2001	USA	attitude to health (death)/ living wills	量的研究(質問紙)	一般高齢者(リタイアメントコミュニティ)	リタイアメントコミュニティにおける死亡場所の希望
Woman's anxiety in old age and long term care provision for the elderly	Kubota M, Babazono A, Aoyama H.	Acta Medica Okayama. 54(2): 75-	2000	日本	health services for the aged	量的研究(質問紙)	一般	高齢者と介護についての女性の認識

Title	Author	Source	Year	Country	key words	方法	対象者	内容
高齢患者全般(意思表示、死亡場所、ケアのあり方など) Planning for death but not serious future illness: Qualitative study of housebound elderly patients	Carrrese JA, Mullaney JL, Faden RR, Finucane TE	BMJ, 325(7356): 125	2002	USA	attitude to health (death)/ advance directives	インタビュー的	慢性疾患を持つ高齢者20名	慢性疾患を持ち、house-boundの高齢者は、死に向けてどのような準備をしているか
Nursing older dying patients: findings from an ethnographic study of death and dying in elderly care wards	Costello J.	Journal of Advanced Nursing, 35(1): 59-68	2001	UK	attitude to health (death)/ truth disclosure	エスノグラフィ	老人病棟入院患者	老人病棟での死と死にゆくこと: エスノグラフィによる参加観察とインタビュー(患者・医師・看護士)
Facilitating end-of-life decision-making: strategies for communicating and assessing	Norton SA, Talerico KA.	Journal of Gerontological Nursing, 26(9): 6-13	2000	USA	attitude to health (death)/ decision making	質的研究(インタビュー)	高齢患者の関係者	末期の決断を促すためには、どのようなコミュニケーションやアセスメントが必要か: 看護士・医師・患者家族へのインタビュー
Early intervention in planning end-of-life care with ambulatory geriatric patients: results of a pilot trial	Schwartz CE, Wheeler HB, Hammes B, Basque N, Edmunds J, Reed G, Ma Y, Li L, Tabloski P, Yanko J, Umass End-of-Life Working Group	Archives of Internal Medicine, 162(14):1611-8.	2002	USA	attitude to health (death)/ advance directives	介入研究	老年科外来通院患者	事前の意思表示(advanced care planning)について、訓練されたナース・ファイナンス・ソーシャルワーカーと相談した群とそうでない群の比較。末期の治療などについての理解度アップ。
The effect of discussions about advance directives on patients' satisfaction with primary care	Tierney WM, Dexter PR, Gramelspacher GP, Perkins AJ, Zhou XH, Wolinsky, ED.	Journal of General Internal Medicine, 16(1): 32-40	2001	USA	advance directives	介入の前後比較	外来患者(高齢者・慢性疾患を持つ50歳以上)	プライマリケアにおける患者満足度にadvanced directivesについての話し合いが与える影響
Religion and end of life treatment preferences among geriatric patients	Hearen O, Menon AS, Raskin A, Ruskin P.	International Journal of Geriatric Psychiatry, 16(2): 203-	2001	USA	attitude to health (death)	質問紙調査	高齢入院患者	高齢者における宗教と末期Txの希望との関連
Age-related differences in care preferences, treatment decisions, and clinical outcomes of seriously ill hospitalized adults: lessons from physician orders for life-sustaining treatment (POLST): outcomes in a PACE program. Program of All-Inclusive Care for the Elderly	Hanel MB, Lynn J, Teno JM, Covinsky KE, Wu AW, Galanos A, Desbiens NA, Phillips Lee MA, Brummel-Smith K, Meyer J, Drew N, London MR.	Journal of the American Geriatrics Society, 48(5 suppl): s176-82	2000	USA	decision making	大規模研究(SUPPORT)のデータ	一般末期患者	年齢によるケア意向、意思決定、アウトカムの違い
Family perspectives on end-of-life care at the last place of care	Teno JM, Clarridge BR, Casey V, Welch LC, Wetle T, Shield R, Mor	Journal of the American Geriatrics Society, 48(10): 1219-25	2000	USA	quality of health care/ advance directives/ decision making	大規模研究のデータ	死亡した高齢患者	PACE(高齢者のプロジェクト)における、医師の事前のオーダーと実際の延命Tx実施
Prevalence, effectiveness, and predictors of planning the place of death among older persons followed in community-based long term care	Johnson MF, Lin M, Mangalik S, Murphy DJ, Kramer AM.	JAMA, 291(1):88-93	2004	USA	home nursing/ home care services	大規模な電話調査	高齢患者	死亡場所とそこで受けたケアについての的大規模遺族調査
Patients' perceptions of physicians' recommendations for comfort care differ by patient age and gender	Leff B, Kaffenbarger KP, Reimsburg R.	Journal of the American Geriatrics Society, 48(8): 943-8	2000	USA	community health services/ house calls	量的研究	高齢患者	死亡場所についての高齢者のプランの有無: 医師によるhouse call program後のプランの状況と、それが実施されたかどうか
		Journal of General Internal Medicine, 15(4): 248-255	2000	USA	decision making	量的研究(インタビュー)	入院中の末期患者	緩和ケアについての医師の勧めをどう認識しているか。年齢・性による違い: 年齢が高く、女性である方が、延命ではなく緩和ケアを勧められていると感じており、高齢である方が決定を医師に任せる率が高い

Title	Author	Source	Year	国	key words	方法	対象者	内容
Understanding the treatment preferences of seriously ill patients[see comment]	Fried TR, Bradley EH, Towle VR, Allore H.	New England Journal of Medicine, 348(14): 1061-6	2002	USA	attitude to health (death)/ treatment refusal	量的研究 (質問紙)	がん、CHF、COPDで余命が限られている患者に対して、生命維持装置の希望について調査(そのような弊害があるか)によって希望が異なった)	
A "good death" for whom? Quality of spouse's death and psychological distress among older widowed persons	Carr D.	Journal of Health & Social Behavior, 44(2): 215-232	2003	USA	quality of health care	量的研究 (インタビュー調査)	配偶者を亡くした遺族	死別6ヶ月後の配偶者の心理状態に影響を与える要因(最期の日々の配偶者との密接な関係、痛みを伴う経過、医師の怠慢という認識など)
高齢患者:コスト								
Age and gender differences in health care utilization and spending for medicare beneficiaries in their last years of life	Bird CE, Shugarman LR, Lynn J.	Journal of Palliative Medicine, 5(5): 705-12	2002	USA	nursing homes (homes for the aged)/ delivery of health care	既存データ の分析	メディケア受給者	末期のメディケア使用状況。性・年齢による相違
Disease-specific patterns of hospice and related healthcare use in an incidence cohort of seriously ill elderly patients	Iwashyna TJ, Zhang JX, Christakis NA.	Journal of Palliative Medicine, 5(4): 531-8	2002	USA	health services needs and demand/ LOS/ patient transfer	既存データ の分析	末期高齢患者	高齢者のホスピスetcの利用パターン。疾患ごとに
Influence of age on Medicare expenditures and medical care in the last year of life	Levinsky NG, Yu W, Ash A, Moskowitz M, Gazelle G, Saynina O, Emanuel EJ.	JAMA, 286(11): 1349-55	2001	USA	health expenditures	既存データ の分析	全般	末期のメディケア使用と医療ケアに年齢が与える影響:高齢者(特に85歳以上)では、アグレッシブな治療が減少するため、メディケア使用が減る
Profiles of older medicare decedents	Lunney JR, Lynn J, Hogan C.	Journal of the American Geriatrics Society, 50(6):1108-12	2002	USA	health expenditure	既存データ の分析	メディケア受給者	メディケア受給者(高齢者)の死亡プロフィール: trajectory/によるパターン分け(突然死・ターミナル疾患・臓器機能不全・虚弱)とそれによるコスト
Why is less money spent on health care for the elderly than for the rest of the population? Health care rationing in German hospitals	Brockmann H.	Social Science & Medicine, 55(4):593-608	2002	ドイツ	health services for the aged	既存データ の分析	高齢者全体	終末期にかけているコスト。高齢者、女性で少ない?!

Title	Author	Source	Year	国	key words	方法	対象者	内容
在宅患者 Age-related differences in patients admitted to a palliative home care service.	De Conno F. Boffi R. Brunelli C. Panzeri C.	Tumori, 88(2):117-22.	2002	イタリア	health services accessibility	記録からデータ抜き出し	在宅緩和ケアサービスを利用した高齢者	年齢による違い
Angels of the night: evening and night patrols for homebound elders in Sweden. What to do when the end is near: ethical issues in home health care nursing.	Malmberg B. Ernsth M. Larsson B. Zarit SH. Ladd RE. Pasquerella L. Smith S.	Gerontologists, 43(6): 761-5 Public Health Nursing, 17(2):103-10.	2003 2000	Sweden USA	home care services home care services/ advance directives/ ethics (medical, nursing, clinical etc.)	実態調査 シナリオを用いた検討	MsとHHAによる夜間patrol 在宅高齢患者	主に高齢者に対する夜間巡回(patrol)の姿態。対象にはターミナル訪問看護師が直面する倫理的・法的問題を、家族も含めて検討
痴呆患者 Can multidisciplinary guidelines improve the palliation of symptoms in the terminal phase of dementia?	Lloyd-Williams M. Payne S.	Journal of Palliative Nursing, 8(9): 370-5	2002	UK	practice guidelines	介入、前後比較	痴呆末期患者	痴呆の末期患者の症状緩和、ガイドラインの効果
End-of-life care and the effects of bereavement on family caregivers of persons with dementia	Schultz R. Mendelsohn AB. Haley WE. Mahoney D. Allen RS. Zhang S. Thompson L. Belle SH. Resources for Enhancing Alzheimer's Caregiver Health	New England Journal of Medicine, 349(20):1936-42.	2003	USA	home care services/ attitude to health (death)	構造化インタビュー	痴呆患者	痴呆患者の終末期ケアについて: 遺族調査
Which level of care is preferred for end-stage dementia? Survey of Taiwanese caregivers.	Chen WT. Wang SJ. Lu SR. Fuh JL.	Journal of Geriatric Psychiatry & Neurology, 15(1):16-9	2002	台湾	attitude to health (death)	質問紙調査	痴呆患者の介護者	終末期にどのようなケアを望むか? 欧米よりも、蘇生を望む傾向が強く、施設入所は拒否的。
Scales for evaluation of end-of-life care in dementia	Volicer L. Hurley AC. Blasi ZV.	Alzheimer Disease & Associated Disorders, 15(4):164-200	2001	USA	consumer satisfaction/ health care	スケール開発	痴呆患者	痴呆患者のターミナルケアを評価するスケールの開発
A decision aid for long-term tube feeding in cognitively impaired older persons	Mitchell SL. Tetroe J. O'Connor AM.	Journal of the American Geriatrics Society, 49(3): 313-6	2001	USA	decision support systems/ patient advocacy	ツール作成とその評価(事前・事後)	認知機能障害をもつ高齢者の意思決定代理人	認知機能障害を持つ高齢者におけるPEG実施についての決断補助ツール開発と有効性検証(代理人に對して)
The attitude of carers and old age psychiatrists towards the treatment of potentially fatal events in end-stage dementia	Coetzee RH. Leask SJ. Jones RG.	International Journal of Geriatric Psychiatry, 18(2), 169-73	2003	UK	attitude to health (death)/ decision making	量的研究(質問紙)	痴呆患者の介護者と精神科医	末期痴呆患者への治療について: 介護者と精神科医への調査
Characteristics of dementia end-of-life care across care settings.	Volicer L. Hurley AC. Blasi ZV.	American Journal of Hospice & Palliative Care, 20(3):191-200.	2003	USA	quality of health care/ home care services	量的研究(相關研究)	痴呆患者	痴呆患者への末期ケアの実施状況と、療養場所などとの関連を検討。 Caregiver Assessment Regarding End-of-Life in Dementia Q

Title	Author	Source	Year	国	key words	方法	対象者	内容
NHでのケア提供について Dehydration in terminally ill patients: Perspectives of long-term care nurses	Critchlow J. Bauer-Wu SM.	Journal of Gerontological Nursing, 28(12), 31-9	2002	USA	decision making	アンケート 調査	介護施設ナース	介護施設ナースの、終末期の脱水 状態についての認識はまざま ち。年齢高いナースの方が脱水を beneficialと見ている
Needs of the dying in nursing homes.	Reynolds K. Henderson M. Schulman A. Hanson LC.	Journal of Palliative Medicine, 5(6):895- 901	2002	USA	nursing homes (homes for the aged)	インタビュー(量 的・半量的)	ナーシングホーム での死亡患者	死亡後、家族と職員に、患者のもつ ていた症状やニーズについて尋ね た
The experience of dying: an ethnographic nursing home study.	Kayser-Jones J.	Gerontologist, 42 Spec No 3:11-9.	2002	USA	quality of health care/ nursing homes (homes for the aged) /attitude to health (death).	エスノグラ フィー	ナーシングホーム の入居者	ナーシングホームケアの実態
Decisions to treat or not to treat pneumonia in demented psychogeriatric nursing home patients: development of a guideline	van der Steen JT. Mulier MT. Ooms ME. van der Wal G. Ribbe MW.	Journal of Medical Ethics, 28(2):114-20	2000	オランダ	nursing guidelines/ nursing homes (homes for the aged)/ decision making	ガイドライ ン作成	ナーシングホーム の医師	痴呆を有するナーシングホーム入 居者の肺炎を治療するかどうかを 決めるためのガイドライン
Elective discontinuation of life-sustaining mechanical ventilation on a chronic ventilator unit.	Ankrom M. Zelesnick L. Barofsky I. Georas S. Finucane TE. Greenough WB 3rd.	Journal of the American Geriatrics Society, 49(11):1549- 54.	2001	USA	nursing homes (homes for the aged)/ advance directives/ withholding treatment.	記述的研 究	慢性的に人工呼 吸器を使用してい た、NHの死亡患 者	ターミナル期の治療中止について
Does hospice have a role in nursing home care at the end of life?	Casarett DJ. Hirschman KB. Henry MR.	Journal of the American Geriatrics Society, 49(11):1493- 8.	2001	USA	nursing homes (homes for the aged)	記録のレ ビュー、レ トロスペク ティブ タイプ	ホスピスケア利用 者(ナーシング ホーム入居者vs 自宅療養者)	両者を比較して、ホームにおけるホ スピスケアニーズを明らかにする
Hospital care at the end of life: an institutional assessment.	Jacobs LG. Bonuck K. Burton W. Mulvihill M.	Journal of Pain & Symptom Management, 24(3):291-8.	2002	USA	quality of health care	グループブ ィ インタビュー とチャート レビュー	施設医師・看護 師、死亡患者とそ の家族	末期ケアについての施設の「文化」 を明らかにし、質改善のプログラム を構築
Factors that influence end-of-life care in nursing homes: the physical environment, inadequate staffing, and lack of supervision.	Kayser-Jones J. Schnell E. Lyons W. Kris AE. Chan J. Beard RL.	Journal of Pain & Symptom Management, 24(3):291-8.	2003	USA	nursing homes (homes for the aged)	参加観察、 インタビュー レビュー	ナーシングホーム 入居者	ホームの物理的環境と組織要因が 末期ケアに与える影響
The quality of terminal care in residential and nursing homes.	Komaromy C. Sidell M. Katz JT.	International Journal of Palliative Nursing, 6(4): 192-200	2000	UK	quality of health care/ nursing homes (homes for the aged)	実態調査、 インタビュー レビュー、 ケーススタ ディ	ナーシングホーム 入居者	NHでのターミナルケアの質(実 態調査、インタビュー、ケーススタ ディ)
Malnutrition, dehydration, and starvation in the midst of plenty: the political impact of qualitative inquiry.	Kayser-Jones J.	Qualitative Health Research, 12(10):1391-405.	2002	USA	quality of health care/ nursing homes (homes for the aged)	質的研究 (学会講 演)	ナーシングホーム 入居者	ホームでのケアは、個別ケアの不 足、嚥下障害や口腔ケアへの注意 不足、スタッフ不足や専門家のス ーパービジョンの欠如が低栄養、脱 水、体重減少を起していることなど
This is Heaven's waiting room: end of life in one nursing home.	Forbes S.	Journal of Gerontological Nursing, 27(11):37-45.	2001	USA	nursing homes (homes for the aged)/ attitude to health (death)	質的研究 (インタ ビュー、参 加観察、記 録観察)	ナーシングホーム 入居者	ナーシングホームにおける末期ケア の実態、欠けているものを提示

Title	Author	Source	Year	国	key words	方法	対象者	内容
Dying in long-term care facilities: support needs of other residents, relatives, and staff.	Katz JS, Sidell M, Komaromy C.	American Journal of Hospice & Palliative Care, 18(5):321-6.	2001	UK	practice guidelines/ nursing homes (homes for the aged)/ decision making/ attitude to health (death)/ quality assurance, health care	質的研究 (記述研究)	高齢者施設スタッフ・入所者家族・他の入所者	左記の人々のサポートニーズと充足度を探っている
Decisions to treat or not to treat pneumonia in demented psychogeriatric nursing home patients: evaluation of a guideline.	van der Steen JT, Ooms ME, Ribbe MW, van der Wal G.	Alzheimer Disease & Associated Disorders, 15(3):119-28 (comment in p.118)	2001	オランダ	practice guidelines/ nursing homes (homes for the aged)/ decision making	質問紙調査	ナーシングホームの医師	No.38のガイドラインの妥当性と使いやすさについての質問紙調査
A case study of the death of an older woman in a nursing home: are nursing care practices in compliance with ethical guidelines?	Kayser-Jones J.	Journal of Gerontological Nursing, 26(9):48-54.	2000	USA	quality of health care/ practice guidelines/ nursing homes (homes for the aged)	シングルケーススタディ	ナーシングホーム入居者	101歳の入居者への倫理的に問題のある処遇: 飲食ができないのに放置、「座らせきり」で褥創
The last 48 hours of life in long term care: A focused chart audit	Hall P, Schroder C, Weaver L.	Journal of the American Geriatrics Society, 50(3): 501-6	2002	カナダ	nursing homes (homes for the aged)	チャートレビュー	NH入所者	介護施設でのターミナルチャートレビュー(死亡前48時間の症状・ケアなど)
Hospitalization patterns and palliation in the last year of life among residents in long-term care.	Travis SS, Loving G, McClanahan L, Bernard M.	Gerontologist, 41(2):153-60.	2001	USA	nursing homes (homes for the aged)/ advance directives/ decision making	チャートレビュー、質・量	ナーシングホーム入居者	治療から緩和ケアへの移行はスームズにいていない。本人・家族・ケアチームの意思決定が重要
A support group for nursing assistants: caring for nursing home residents at the end of life	Burack OR, Chichin ER.	Geriatric Nursing, 22(6):299-305	2001	USA	nursing homes (homes for the aged)	調査と介入 (対照なし)	NHのcertified nursing assistant	NHのcertified nursing assistant (CNA)への調査とグループセッションの有用性
As individual as death itself: a focus group study of terminal care in nursing homes.	Hanson LC, Henderson M, Menon M.	Journal of Palliative Medicine, 5(1):117-25.	2002	USA	quality of health care/ nursing homes (homes for the aged)/ attitude to health (death)	フォーカスグループインタビュー	ナーシングホームスタッフ	ホームでの良いターミナルケアの定義とその促進要因・阻害要因
Assessing the educational needs and concerns of nursing home staff regarding end-of-life care.	Ersek M, Kraybill BM, Hansberry J.	Journal of Gerontological Nursing, 26(10):16-26.	2000	USA	nursing homes (homes for the aged)	フォーカスグループインタビュー	ナーシングホームの看護スタッフ	末期ケアに関する教育ニーズ
Reforming care for persons near the end of life: the promise of quality improvement.	Lynn J, Nolan K, Kabcenell A, Weissman D, Milne C, Berwick DM, End-of-Life Care Consensus Panel.	Annals of Internal Medicine, 137(2):117-22.	2002	USA	nursing homes (homes for the aged)/ advance directives/ quality assurance, health care	複数のケーススタディ	ナーシングホーム入居者へのケア提供者	終末期ケアの質を向上させるためのPlan-Do-Study-Act Cycleの取り組み
Tending the soul as well as the body: spiritual care in nursing and residential homes.	Orchard H, Clark D.	International Journal of Palliative nursing, 7(1): 541-6	2001	カナダ	nursing homes (homes for the aged)	量的研究 (質問紙)	NH	NH, Residential Homeでのスピリチュアルケアがどのように行われているか
Promoting a good death for persons with dementia in nursing facilities: family caregivers' perspectives.	Bosek MS, Lowry E, Lindeman DA, Burck JR, Gwyther LP.	JONA's Healthcare Law, Ethics, & Regulation, 5(2):34-41.	2003	USA	quality of health care/ nursing homes (homes for the aged)/ attitude to health (death)/ decision making	量的研究 (小規模、記述)	高齢者ケア施設に入所している痴呆患者	遺族調査

Title	Author	Source	Year	国	key words	方法	対象者	内容
NH入所者の意思決定								
Advance care planning and end-of-life care for hospitalized nursing home residents.	Happ MB, Capezuti E, Strumpf NE, Wagner L, Cunningham S, Evans L, Maislin G.	Journal of the American Geriatrics Society, 50(5):829-35.	2002	USA	nursing homes (homes for the aged)/ advance directives	記録のレビュー、ファイールドノート	ナーシングホームから死亡6週以内に入院した患者	終末期の治療に関する意思決定や実際の末期医療が十分に行われていない
Stability of preferences regarding life-sustaining treatment: a two-year prospective study of nursing home residents.	McParland E, Likourezos A, Chichin E, Castor T, Paris BE.	Mount Sinai Journal of Medicine, 70(2):85-92.	2003	USA	nursing homes (homes for the aged)/ advance directives/ decision making	前向き研究、インタビュー	ナーシングホーム入居者	終末期治療に関する意思決定は、時間の経過によって変化する

Title	Author	Source	Year	国	key words	方法	対象者	内容
レビュー: 高齢患者全般 Are we using percutaneous endoscopic gastrostomy appropriately in the elderly?	Skelly RH.	Current Opinion in Clinical Nutrition & Metabolic Care. 5(1): 35-42	2002	UK	ethics (medical, nursing, clinical etc.)	レビュー	高齢患者全般	高齢者へのPEG造設は適切に行われているか: 先行研究のレビュー、倫理的問題の検討、PEG造設のdecision treeの提示
Ethical issues relating to the use of antimicrobial therapy in older adults	Marcus EL, Clarfild AM, Moses AE.	Clinical Infectious Diseases. 33(10): 1697-705	2001	イスラエル	attitude to health (death)/ ethics (medical, nursing.	レビュー	高齢(末期)患者	高齢患者への抗生剤投与の是非について: 実態、患者・家族・医療者の意向などの先行研究と倫理的問題
Parenteral hydration and nutrition in the geriatric patient: clinical and ethical	Milon LC, O'Connell A	Journal of Infusion Nursing. 26(3): 144-52	2003	USA	withholding treatment/ decision making	レビュー	末期の高齢者・痴呆患者	高齢者・痴呆患者の末期の点滴について
What impact do setting and transition have on the quality of life at the end of life and the quality of the dying process?	Mezey M, Dubler NN, Mitty E, Brody AA.	Gerontologists, 42 Spec. No.3 54-67	2002	USA	quality of health care/ home nursing	レビュー		高齢患者の末期のQOLと死にゆくプロセスの質に対する、死亡場所による影響
What is known about the economics of end-of life care for medicare beneficiaries?	Buntin MB, Huskamp H.	Gerontologists, 42 Spec No.3 40-8	2002	USA	quality of health care	レビュー	Medicare受給者	Medicare受給者のターミナルケアの経済面について: Medicareでは十分なカバーできない、など
End-of-life care for older adults in ICUs.	Baggs JG.	Annual Review of Nursing Research, 20, 181-229	2002	USA	Professional-Family Relations/ ICU	レビュー	高齢のICU患者	高齢末期患者のICUでの看取りについて「病院での末期ケアの現状とあり方」「ICUでの高齢患者の死亡に影響する要因」「急性期ケアにおける死亡患者の家族にとって重要なこと」「ICUで死にゆく患者をケアする医療従事者にとって重要なこと」などの視点で整理
Advances in pain management for older adult patients	Abraham JL.	Clinics in Geriatric Medicine. 16(2):269-	2000	USA	pain management	レビュー(解説)	高齢患者	高齢患者における疼痛管理
Care of patients nearing death: another view	Finucane TE.	Journal of the American Geriatrics Society, 50(3):551-3	2002	USA	death/ human	レビュー(解説)	一般	末期患者のケアについて: 一般に言われている法的・技術的・倫理的介入よりも、死にゆく人々へのSympathyが最重要
Caregiving issues in the geriatric medical encounter	Silliman RA.	Clinics in Geriatric Medicine. 16(1): 51-60	2000	USA	health services for the aged	レビュー(解説)	高齢患者	高齢者介護について(一部ターミナル含む)
Death and dying: management of patients with end-stage disease	Leland JY.	Clinics in Geriatric Medicine. 16(4): 875-	2000	USA	nursing homes (homes for the aged)	レビュー(解説)	高齢末期患者	高齢者に対するターミナルケア(経過、症状緩和など)
Depression and the dying older patient	Lander M, Wilson K, Chochinov HM.	Clinics in Geriatric Medicine. 16(2):335-	2000	カナダ	depression	レビュー(解説)	高齢末期患者	死にゆく高齢患者における「うつ」
End-of-life care in the critically ill geriatric population	Mularski RA, Osborne ML.	Critical Care Clinics. 19(4): 789-810	2003	USA	health services for the aged/ withholding treatment	レビュー(解説)	高齢ICU患者	高齢者に対するICUケアについて
End-of-life ethical issues in Japan	Davis AJ, Konishi E.	Geriatric nursing. 21(2):89-91	2000	日本	truth disclosure/ ethics (medical, nursing, clinical etc.)/ informed	レビュー(解説)	高齢者全体	日本の高齢者におけるend-of-lifeの倫理的問題
Factors contributing to the quality of end-of-life care	Baines BK, Norlander L.	Journal of the American Academy of Nurse Practitioners. 12(11): 472-4	2000	USA	quality of health care/ advance directives/ continuity of patient care/ health policy	レビュー(解説)	高齢患者一般	高齢者のターミナルケア: advance directives, 末期についての情報提供など